

だれもが充実したいのちを燃やして生きることができるよう!

私たちは地域・職域・学校など、生活のいろいろな場面で「健康寿命」をのばす運動を実践しています。

よぼう医学

THE NEWS OF HEALTH SERVICE

2010(平成22)年4月15日 第441号

(財)東京都予防医学協会
(財)予防医学事業中央会東京都支部
発行人 北川照男・編集人 山内邦昭
発行所 〒162-8402
東京都新宿区市谷砂土原町1の2
保健会館 電話 03-3269-1131
http://www.yobouigaku-tokyo.or.jp
毎月15日発行 年間購読料300円(1部30円)



小雨の中、キドニーウォークには200人を超える市民らが参加

さらには、CKDがメタボリックシンドロームと同様に心筋梗塞や脳卒中など心血管疾患の危険因子であることが知られるようになり、末期腎不全への進行の予防と共に心血管合併症発症を阻止する対策を強化することが、喫

新たな国民病CKD 慢性腎臓病

腎臓病の一部は自覚症状がないまま進行し、透析や移植が必要な末期腎不全に至ることもある。CKD(慢性腎臓病)は透析予備群であるばかりでなく心血管疾患の危険因子でもあることから、その対策は世界的にも大きな課題となっている。このため国際腎臓学会と国際腎臓財団連合は、毎年3月の第2木曜日を「世界腎臓デー」と定め、CKDへの理解や早期発見、早期治療の重要性を呼びかけている。今年のテーマは「あなたの腎臓を守り、糖尿病をコントロールしよう」。わが国でも、厚生労働省がCKDをテーマにシンポジウムを開催した他、この日を前に日本慢性腎臓病対策協議会や腎臓病早期発見推進機構などによる講演会や啓発イベントが各地で行われた。

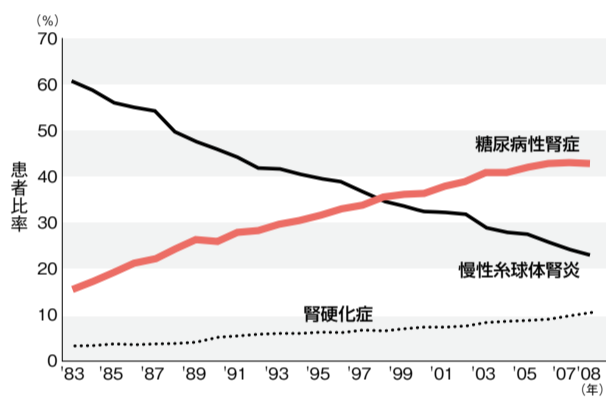
末期腎不全や心血管疾患の危険も

かかりつけ医と専門医の連携図る

わが国の慢性透析患者は、毎年約1万人のペースで増加しており、2010年末には約30万人に達すると言われている。また、現在注目されているCKD(慢性腎臓病)患者は約1330万人。成人の8人に1人と推定され、CKDは新たな国民病となっている。CKDの初期は自覚症状に乏しく、気づかないまま放置すると腎機能が低下し、透析療法が必要な末期腎不全に陥る危険がある。そうしなければ患者のQOL(生活の質)は低下し、心身の負担も大きい。

緊の課題となっている。CKDは、蛋白尿など腎臓に障害があることを示す所見もしくは腎機能が低下している状態で3カ月以上続くことで診断される。尿検査や血清クレアチニンの測定で診断できることから、健康診断などで早期に発見し、適切な治療につなげることが可能である。3月7日に東京・千代田区で開催されたキドニーウォーク(主催 腎臓病早期発見推進機構)では、小雨模様にもかかわらず200人を超える市民らが参加して、健診によるCKD早期発見の大切さを呼びかけた。また同日の午後、東京・文京区のホテルで開催されたCKD啓発イベント講演会(主催 日本慢性腎臓病対策協議会、日本腎臓財団)では、CKD診断の最新知見、CKDと心血管疾患との関係、日本医師会のCKD対策などをテーマに講演が行われた他、シンポジウム「地域ごとの実情に合わせた実践的なCKD対策に向けて」が開催された。膨大な数のCKD患者に対して

図 年別透析導入患者の主要原疾患の推移



日本透析医学会編 図説 わが国の慢性透析療法の現状(2008年12月31日現在)より引用、改変

平成21年度理事会・評議員会を開く 本会
生児マスキリ
ーニング事業などにも積極的に参加した。

東京都予防医学協会の平成21年度第3回理事会及び第2回評議員会が3月29日、都内のホテルで開かれた。冒頭、あいさつに立った北川照男理事長は、21年度の事業をほぼ予定通り遂行できたことを報告して、関係者の理解と協力に謝意を表し、次のように述べた。「今年度も、各種がん検診、生活習慣病を予防する研究、新

健康管理相談をお引き受けします

当センターの会員が事業所、学校、各種団体の健康管理をアドバイスいたします。担当: 江幡良晴 三輪祐一

健康管理コンサルタントセンター
事務局 東京都新宿区市谷砂土原町1-2
(財)東京都予防医学協会
電話 03-3269-1141

送付先の変更・中止について
送付先の住所変更・購読中止の場合には、変更内容を明記の上、本会広報室までお知らせください。
Eメール thsa-koho@msj.biglobe.ne.jp
FAX 03-3269-7562
お電話(03-3269-1131)でも承っております。

今月の主な紙面

- (1面) ● 新たな国民病CKD(慢性腎臓病)
● 平成21年度理事会・評議員会を開く一本書
- (2・3面(見開き))
● 連載 どう読む? 健康情報 第10回
● 話題 特定健診・保健指導制度の現状と今後の生活習慣病対策のあり方
● 連載 健康づくり・健康増進を支援するページ 保健指導シリーズ最終回: 医師/保健師/管理栄養士/健康運動指導士のコラム
- (4面) ● より質の高い学校検診のために 腎臓・糖尿病検診、心臓検診の打ち合わせ会を開催一本書
● 第15回健康づくり懇話会例会が開催
● ドクターミーティング・ナースミーティングを開く一本書
● 本会年報2010年版ができました

腎臓・糖尿病検診、心臓検診の打ち合わせ会を開催一本会



腎臓・糖尿病検診の打ち合わせ会



心臓検診の打ち合わせ会

より質の高い学校検診のために

新年度になり、小・中・高等学校では一斉に児童生徒の健康診断が行われている。これに先立ち、本会では毎年、検診を担当する小児の腎臓・糖尿病・心臓病の専門医らによる、学校検診に向けての打ち合わせ会を実施している。今年も腎臓・糖尿病検診の打ち合わせ会を3月5日に、心臓検診の打ち合わせ会を3月11日に開催した。打ち合わせ会には、本会の検診指導や診断と治療などを担当している専門医らと、本会のスタッフが、検診を行う上でのさまざまな問題を討議し、関係者間の共通理解と連携を深めた。

打ち合わせ会では、腎臓・糖尿病検診、心臓検診それぞれについて、2010年度の実施予定件数や、地区別の検診実施日程の確認などが行われた。
また、心臓検診の打ち合わせ会では、検診の結果、至急受診を必要とする場合の判断基準の検討がなされた。
また、心臓検診の打ち合わせ会では、検診で見つかった特異な症例が報告されるなど、より円滑な検診の構築と早期診断に向けて、専門医らによる活発な意見交換が行われた。

今回、それぞれの打ち合わせ会に参加した医師らは次の各氏である(順不同、敬称略)。
▽腎臓・糖尿病検診
村上睦美(日本医科大学名誉教授、五十嵐徹(同大学講師)、三浦健一郎(東京大学医学部助教、伊藤文之(東京慈恵会医科大学教授、宿谷明紀(同大学講師、高橋昌里(同大学医学部教授、浦上達彦(同大学医学部准教授、齋藤宏(同大学医学部助教、大友義之(順天堂大学医学部准教授、元吉八重子

(東京医科大学助教、大森多恵(都立墨東病院医長、亀井宏一(国立成育医療センター)、下田益弘(武蔵野赤十字病院副部長、関根孝司(東邦大学医学部教授、楊國昌(杏林大学医学部教授、土屋正巳(つちや小児科院長、服部元史(東京女子医科大学教授、松山健(公立福生病院副院長、北川照男(本会理事、稀代雅彦(順天堂大学医学部准教授、鈴木淳子(東京通信病院部長、土井庄三郎(東京医科大学准教授、保崎明(杏林大学医学部助教、村上保夫(神原記念病院院長、山岸敬幸(慶應義塾大学医学部講師)、原光彦(都立広尾病院部長、北川照男(本会理事、日本大学医学部名誉教授)

本会では毎年、本会の健康診断に従事している医師や関連スタッフによるドクターミーティングと、看護師や関連スタッフによるナースミーティングをそれぞれ開催し、現場で起こる問題や課題を話し合い、共通理解を深めると共に、健診の効率化や精度の向上を図っている。

3月6日に行われたドクターミーティングには、地域や職域の健康診断を担当する医師を中心に、北川照男本会理事、小野良樹本会健康支援

センター長、健康教育事業本部、総合健診部、看護部のスタッフら約50人が出席した。ミーティングでは2010年度の事業の概要や本会を取り巻く情勢についての報告の他、CKD(慢性腎臓病)の早期発見・早期治療を目的として新年度より導入するeGFR(推算糸球体濾過量)の判定基準、高血圧治療ガイドラインの改定に伴う血圧判定区分の変更点などが解説された。

一方、2月12日に行われたナースミーティングには、本会の健康診断に従事している看護師を始め、関係スタッフ約40人が出席した。ミーティングでは、現場で想定されるさまざまな課題や判定基準、判定区分の変更点などについて解説が行われた。他、よりよいサービスと危機管理の徹底に向けた意見交換や情報の共有が行われた。

本会では毎年、本会の健康診断に従事している医師や関連スタッフによるドクターミーティングと、看護師や関連スタッフによるナースミーティングをそれぞれ開催し、現場で起こる問題や課題を話し合い、共通理解を深めると共に、健診の効率化や精度の向上を図っている。

第15回健康づくり懇話会例会が開催



本会の産業医、佐藤裕司医師(写真)が「長時間残業とメンタルヘルス不全」本場に関連するの」と題して、特別講演を行った。

佐藤医師は、「わが国の労働時間は、1970年代は年間2200時間以上だったが、2009年は1733時間と減少している。一方、労働者のメンタルヘルスの現状は、うつ病罹患率が2000年を境に約10年で2.4倍と悪化している」ことなどを指摘。続けて「厚生労働省の労働時間調査によると、2009年2200時間以上だった結果、月100時間以上の極端に多い残業時間は単独でストレス反応を高めるが、残業時間そのものがストレス反応を高めているのではなく、仕事量への負担感や睡眠時間の減少などを介してメンタル

「労働者の長時間残業の面談では長時間労働だけに注目するのではなく、その労働者が何を悩んでいるのかということとを、しっかりと聞き取ることが大切だ。職場での背景を含めて理解し、アドバイスするのが、過重労働とメンタルヘルス不全の問題に対するわれわれの役割だと考えている。」

この他、本会の北川照男理事長(日本大学医学部名誉教授)がCKD(慢性腎臓病)対策をテーマに講演し、本会でも、CKDを早期に発見し、早期治療に結びつけるため、新年度よりeGFR(推算糸球体濾過量)を判定に導入することなどを述べた。

お知らせ

第231回ヘルスケア研修会

職場におけるアルコール依存症

5月12日(水) 14~16時
東京・千代田区「星陵会館」

第231回ヘルスケア研修会が5月12日(水)14時から16時まで、東京・千代田区の「星陵会館」で開かれる。

「職場におけるアルコール依存症」その予防と対策」をテーマに、国立病院機構久里浜アルコール症センターの樋口進副院長が講演する。司会者は、鷲崎誠前東京地下鉄保健医療センター所長。参加費2千円。定員先着400人。

【I 学校保健】
心臓病検診 「心臓病検診の実施成績」浅井利夫(東京女子医科大学教授)
腎臓病検診 「腎臓病検診の実施成績」村上睦美(日本医科大学名誉教授)
糖尿病検診 「小児糖尿病検診の実施成績」浦上達彦(日本大学医学部准教授)「学童糖尿病検診で発見される腎性糖尿—その実態と診断意義—」大和田操(女子栄養大学大学院教授)
脊柱側弯症検診 「脊柱側弯症検診の実施成績」南昌平(聖隷佐倉市市民病院院長)
小児生活習慣病予防健診 「小児生活習慣病予防健診の実施成績」村田光範(東京女子医科大学名誉教授)
貧血検査 「貧血検査の実施成績」前田美穂(日本医科大学教授)

【II 地域・職域保健】
定期健康診断・基本健康診査 「定期健康診断の実施成績」須賀万智(聖マリアンナ医科大学准教授)「住民健診の実施成績」本会成人保健部
特殊健康診断 「特殊健康診断の実施成績」三輪祐一(本会総合健診部)
保健指導事業 「保健指導の実施成績」本会健康増進部
人間ドック 「人間ドックの実施成績」三輪祐一(本会総合健診部)
超音波検査 「超音波検査の実施成績」本会検査研究センター
クリニックの外来診療 「クリニックの実施成績」小野良樹(本会保健会館クリニック)

【III 母子保健】
妊婦甲状腺機能検査 「妊婦甲状腺機能検査の実施成績」百瀬尚子(本会内分泌科)
性感染症検査 「東京におけるクラミジア・トラコマチスおよび淋菌検査の実施成績」松田静治(性の健康医学財団理事長)
新生児スクリーニング検査 「新生児の先天性代謝異常症のスクリーニング成績」本会検査研究センター「先天性甲状腺機能低下症(クレチン症)の新生児マス・スクリーニング実施成績」杉原茂孝(東京女子医科大学教授)「先天性副腎過形成症の新生児マス・スクリーニング実施成績」小野真(東京医科大学)

【IV がん検診】
胃がん検診 「胃がん検診の実施成績」本会放射線部
肺がん検診 「肺がん検診の実施成績」本会企画調整部「東京から肺がんをなくす会の実施成績」金子昌弘(国立がんセンター中央病院部長)
大腸がん検診 「大腸がん検診(便潜血反応検査)の実施成績」本会検査研究センター
子宮がん検診 「子宮がん検診(グリーンルーム)の実施成績」伊藤良彌(本会婦人検診部)
東京産婦人科医会との協力による子宮がん細胞診 「子宮がん細胞診の実施成績」長谷川壽彦(本会検査研究センター)「子宮がん精密検診センターの実施成績」塚崎克己(慶應義塾大学医学部准教授)
乳がん検診 「乳がん検診の実施成績」坂佳奈子(本会がん検診診断部)
乳房2次検診センターのシステム 「乳房2次検診センターの実施成績」坂佳奈子(本会がん検診診断部)

【V 生活環境検査】
生活環境検査 「生活環境検査の実施成績」本会検査研究センター「飲料水の安全確保と病原微生物」保坂三継(東京都健康安全研究センター微生物部ウイルス研究科長)

【VI 研究・健康教育活動】
学会、研究会での研究発表/健康教育活動/2008年度の本会の概要